

2017年7月10日 千葉大学アカデミック・リンク・センター

千葉大学ALPSプログラム 第3回シンポジウム

「新しい学修支援の実践－我が国の先進的な事例－」

参加者アンケート

当日参加者数： 77名 アンケート提出数： 48件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・他大学においても、学修支援について様々な試行錯誤を重ね、多くの工夫をしながら進めているということを確認でき、刺激となった。その一方で、学修支援の体系的な方法論の必要性を痛感した。
- ・ALPSの目的（内容）、国際教養学部を支えるスタッフ（SULA）の事がわかりました。
- ・全学統一の学修支援サービスは、サービスの公平性や窓口のわかりやすさから素晴らしいと思う一方、本学のような総合大学では膨大な知識や抱える学生数から、組織的にどのように運営するのが難しいと思いました。
- ・大学改革や新学部設置などの大きな背景がないと、新しい制度の導入は難しいのでは、と思いました。
- ・学修支援が窓口を1つにするように実施されている事例を拝聴し、所属大学での業務を考える上での参考となりました。ありがとうございました。
- ・これからの日本にとっても大切なしくみですね！優秀だからこそ主体性を育むのが難しい、に実感もあり再発見です。
- ・教務課で働いていて、本日お話があったように学修支援と学生支援は非常にリンクしていると実感することが多く、そこへどのようにアプローチしていくかが課題です。この課題が共通してあることを確認できたことがひとつ得たことでした。また、学修支援の中で得た課題や情報を他部署（関連部署）や教員にフィードバックしていく職員の意識の大切さに気付きました。
- ・「学修支援」という分野は日本ではまだまだこれからだということが再認識できた。国内の大学間でネットワークを作れると良いと思った。
- ・東工大の学修支援システムの成り立ちや構成をうかがい、何てlogicalなのだろうと感心した。また、実際の構成員がピアサポート、教職員そしてOG、OBだというシステムティックな点についても感心した。
- ・他大学の職員（今回発表された方々）は大変優秀で、組織を支え、成長させている要となっているということがよくわかりました。本学も組織が成長するよう、職員が頑張らなければならないと思いました。
- ・人事異動がありながらも、職員としてはたすべき責任について
- ・事例が具体的で、働き方のイメージがしやすくなった。
- ・学修支援が各学校によりかなり異なる組織となることがわかった。
- ・大学の状況に応じた様々な学生支援の形式を学ぶことができた。
- ・教育・学修支援職員の資質、あり方
- ・学修支援活動の体制、それを活用した好事例
- ・千葉大学のALPS履修証明プログラムや国際教養学部の取り組み、東工大の学修コンシェルジュの事例について知ることができた。
- ・大学高等教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できるよう、広い視野からの学修支援ができる教職員の能力育成には、個々人の素養向上とネットワークが必要不可欠であることが理解できました。
- ・東工大学修コンシェルジュの主体的な学びを促進する活動について、困っている学生支援以外の視点は新しい発見だった。

- ・新しい教育実践の事例（2つ）が、専門部署が中心となり、組織的に円滑に業務が遂行されていることがよくわかりました。
- ・学生支援と学修支援が深い関わりがあるということが良くわかりました。またより良い支援を実施する上では、特定の職員のみではなく、大学全体が必要、意義を理解すべきであると認識しました。
- ・千葉大学、東工大の事例を通して、学修支援専門職員や学修コンシェルジュが担っているミッションと具体的にどのような業務を行っているかということがわかった。
- ・「学生支援」を大学の柱と位置づける発想は素晴らしいと思いました。組織的な活動が必要と思いました。
- ・教員が職員に求めることと、実際に職員が学生に対して行えることには、(従来からの)「理想」と「現実」のギャップがあることを改めて感じた。
- ・国際教養学部で学ぶことのできる幅の広さに驚いた。
- ・SULA という学務系専門職の取り組みが新しいと思った。(中でも、入学から卒業までを同一の SULA が一貫サポートという点が良い)
- ・OB が学修コンシェルジュとして活躍しているという取り組みが新しく感じた。
- ・学ぶのは学生のみではない。職員もどんどん学び、学生の刺激となるべき。
- ・東工大規模の大学で、少人数での履修ガイダンスを行っている事実が、履修ガイダンスの重要性（特に入口段階での）が高いことの現れだと思い、今後の参考にさせていただきたい。
- ・学修支援の仕事はみなさん試行錯誤されて取り組んでいる。大学の事情に応じてサービスの企画、運営、実施をしている。
- ・学修支援は教員だけがやることではない。勉強が必要。
- ・SULA の取り組みが非常に興味深かった。
- ・とても学びが多かった。特に、国際教養学部の仕組みがわかって、SULA の意義（すごさ、大変さ）がとても理解できたのが良かった。
- ・大学のことをよく知る、学生を理解する等、今担当している業務に精通するだけでなく、大学人として当たり前だが今までやってこなかったことを意識して、日々仕事をしていきたいと思いました。
- ・自学と同様に、他大学でも工夫と苦勞をしているのだと実感しました。
- ・学修支援は、様々な部署との連携が不可欠であること、または、それらをつなぐ部門が必要なのだということがよくわかりました。
- ・本学でも学生支援は力を入れていると思っていたが、千葉大、東工大の事例を伺って、国立でもこんなに力を入れてきているのかと認識を新たにしました。
- ・学生個人々々に向けたサービスの必要性
- ・仕掛け、仕組みの重要性、作る人+回す人の組み合わせによって新しい取り組みが生きる、活性化する可能性が高まる。
- ・学修支援は、やはり全学的にワンストップサービスで行っているという状況がよくわかった。
- ・学修支援について、大学の特性による取り組みをお伺いすることができ、参考になりました。
- ・ALPS 履修証明プログラムの目指すところ。
- ・新しい学修支援の形とはどういうものか、何が必要か、よくわかりました。
- ・千葉大国際教養学部の SULA の方が大変きめ細かい支援が行われていること、学生にとって大変身近な存在で素晴らしいと思いました。
- ・学生支援におけるサポートスタッフの体制から、実際にどのような活動をされているか知ることができました。特に、活動の中で抱えている課題や今後予想される問題も含めてお話をいただき、大変参考となりました。

- ・現状の学生支援は、組織的というよりも、担当となった方の努力と資質に支えられていると実感した。しかしながら、このような仕組みでは、職員個人が過度に疲弊してしまう可能性が高く、組織としてどのように取り組み、支援できるかが今後の大きな課題であると感じた。
- ・かなり専門的、かつ幅広い知識が必要な業務にも関わらず、一般的な事務職員の異動であることが驚きでした。
- ・本学のみならず、実際に学修支援に割けるリソースがとて少ないということを実感した。

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ALPSを受けて得られる実質的スキル（参加すれば実感、身につくことと思いますが…）
- ・東工大での学部大学院の組織改革は大変興味深かったのですが、ここまで大きな改革をするには大変な苦労と労力があつたかと思うのですが、どのように決めていったのでしょうか…（学修支援とは関係がなかったなので、ここに書かせていただきました）
- ・SULAは専門職ということでしたが、資格等の要件がないのが心配になりました。
- ・SULAと教員、カウンセラーとの役割分担と重なり、相互支援をどうするのか、SULAに依存する教員が出てくるのでは？教師の“学修支援”をどう考えるかもパラレルな課題ですね。学生支援と学修支援が未整理ですね。つながりもふくめて…。学生のことを「子」というのは疑問です（ペタゴジー）。
- ・学生への支援として、どこまでサポートするか、どこから自らの気づきとして得させるかというラインが難しいと感じており、その点についてより深くお聞きできればよかったです。
- ・SULAについてももう少し詳しく聞きたかった。
- ・SULAのような高度な職務を担う職員が「フツアの事務職員」であるはずがない。
- ・千葉大学や東工大のような学生の学習意欲の高い大学における学修支援についてはイメージがつかめたが、学生の意欲が低い大学での支援はどのように実行すればよいか、どのようなことに気をつけなければならないか。学修支援の具体的な工夫について。
- ・院生が担当しない時のピアサポートについて
- ・千葉大学では、個人にSULAという役割を任命していますが、東工大の発表にあつたようなプロデューサーの育成も検討しているのでしょうか？
- ・答えがあるわけではないと思いますが、大学職員の専門化と、ジョブローテーションという相対するシステムについて、大学としてどのように対応していくことが求められているのか。
- ・専門職員養成のためのコンテンツ、時間数、ルーブリックが相応であるかという疑問を感じた。
- ・千葉大学国際教養学部の卒論のテーマ（例）を聞き、卒論指導を適切に行えるか疑問を感じた。→同様の取り組みを行った結果、「学生が考えをまとめきれない」というケースを見てきたので…。
- ・ALPS 試行プログラムで修了できなかった方の理由（59→50、35→27）
- ・SULA、東工大は学部との協力関係、立場関係はどうか？教員の要請を受けて実施しているのか。独自でプログラム、サービスを発信している？
- ・東工大の学修コンシェルジュ、蔵前工業会の方々への金銭的な報酬は？
- ・学生支援のためには、色々なことを知っている必要があるのですが、経験を積んだ職員がそういった部署に配置されるのは良いことだと思うが、そこに長いことしばられるような人事になるのであれば、職員自身のキャリア形成としてどうなのかという思いも抱いた。
- ・既存の事務体制との業務の切り分け
- ・事務職員にとて高いスキルが（知識としても、コミュニケーションにおいても）求められているように思います。組織として、職員のマネジメントがどうあるべきか、難しい問題に感じました。

・すでに当たり前のことになっている風潮だが、朝起きられない学生や登校してこないというレベルの学生をフォローしていかなければならないことに個人的には抵抗を感じている（これをする事で自立した人間を育成できているのだろうか!）。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・SDの義務化以上にFDの充実（教員の自覚）が教育・学修支援には不可欠と思います。
- ・多様化する社会情勢や学生の在り方に対して、これまでの縦割りの職員の働き方では対応が難しくなっています。もちろん各業務のスペシャリストであることは必要ですが、業務を横断するジェネラリストとして求められてきているように感じています。
- ・本学は学修支援の専門部署はないので、学生はそれぞれ、学生課、保健室、教務課と相談に来ますが、相談内容によって関連部署につなぐ、情報共有するという取り組みをしています。ただし、これは個人的な取り組みなので、職員全体が同じような意識で仕事にあたれると良いと感じています。学生への関心、自大学への関心、他部署業務の知識、学外についての情報把握、コミュニケーション能力などが私たち職員には求められると感じています。
- ・専門性が必要な分野だと思うが、どのような資質、能力が求められているかぼんやりとしたまま、運営している大学も多いのでは。
- ・本学では、数年前に設置したラーニングコモンズの規模を縮小するとともに、ラーニングコモンズの学生スタッフを全員解雇することを決定しました。学習支援体制を縮小する大学において、学習支援担当として何ができるのか、危機感を強く持っています。
- ・大学に関する知識は基本であり、更により良いサポートを実施しようとするモチベーションや意欲が必要だと思いました。
- ・傾聴する力が重要であると思う。そして、学生から信頼できる、何でも相談できそうと思われること。
- ・伊東様の発表にもありましたように、入口でのガイダンスが重要であると常日頃から考えている。単なる履修方法に関する内容に限らず、大学制度、自大学に関して理解してもらえるような内容のガイダンスが重要なのではないかと。
- ・私は専任職員で、学修センター（自学自習のための場所、プログラムを提供）の責任を持っているが、センターのスタッフの中には図書館司書もいるが、教務、学務に関する知識が必要。小規模大学なので、全スタッフ（4名）が「兼任」という状況で実施しているため、学修支援（千葉大のSULAのような業務）のための業務連携、効率的な体制、アンケート等調査、分析をする専門家が必要だと感じます。
- ・京大の大学教育開発センターでは盛んでしょうか。
- ・学生が自ら活動することのサポートが教職員のつとめだと思う。学生はカリキュラム段階通りに成長するとは限らない。行きつ戻りつしながらの成長を見守っていきたい。
- ・必要と思う資質・能力は、教育・学修支援特有に必要なものということはありません。結局のところ教職員のこれまでの経験してきたことや課題解決に向けて何が必要かを理解して動ける力なのかなと思いました。本学では学修支援として履修登録や進路を上級生に相談するピアサポーター制を取り入れています。
- ・学修支援とは自分で自主的な気持ちを芽生えさせるもの、国の政策を把握する力、学内の幅広い知識。
- ・支援を必要としている学生の背景は様々で、幅広く対応ができ、他の専門部署と連携していく必要がある。
- ・必要と思う資質：自らも学び続けていく姿勢、新しいものに対する柔軟性、高度な知識、知力に裏づけされた自信（自分のことを「普通の職員」と思っている人には難しいと感じた。）

4. 本日のシンポジウムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・学期末のご多用の中を開催下さり、ありがとうございました。
- ・各大学で似たような問題をかかえていることは多いと思います。このような改革の事例の紹介は大変参考になると思います。
- ・素晴らしいシンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。とても刺激を受ける内容でした。
- ・SD・FDをこえていくプログラムであり、未来を創る大学教育に不可欠だと思いました。
- ・毎回、紹介される他大学の事例は大変参考になります。大学の選択が素晴らしい！
- ・学生に主体的な学びの推進をする前に職員がさらに学んでいかねばならないと思いました。
- ・SULA、コンシェルジュは、通常業務+ α で現在多くの学生支援センターの事務職員が行っている事を可能な限りワンストップで対応する。 $+\alpha$ の部分が中心業務なのですね。
- ・有意義な会をありがとうございました。
- ・東工大のOBが関わるシステムが興味深かった。
- ・“何もせずに立ち止まっただけは何も進まない”現状をどう評価し、新しい取り組みに自ら関わっていかないと、新しい教育・学修支援の姿は見えてこないと実感いたしました。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・貴重なお話をお伺いすることができました。ありがとうございました。
- ・塚田さんのお話に感銘を受けました。向上心あふれ、自分も目指したい人物像だと改めて思いました。総体的に非常に有意義な時間で満足しました。
- ・学生支援と学修支援はつながりがあるということよく学びました。どうもありがとうございました。
- ・時宜を得たテーマのシンポジウムであったと存じます。
- ・プレゼンと説明のわかりやすい部分もありますが、わかりづらく冗長すぎて理解しづらい部分も多く感じました。
- ・「学生の名前を覚えて気にかける」を更に努力していこうと思う。
- ・教育・学修支援に取り組む上で、有益な情報がたくさん得られました。
- ・ALPS履修証明プログラムの一部が公開講座として実施されるのは素晴らしいが、eラーニングのみのものもあると嬉しい。
- ・お話いただいた内容がとても濃く、大学として新しい取り組みに注力されていることにとても感銘を受けました。貴重なお時間をありがとうございました。
- ・やはり、きちんと組織や雇用（勤務）体系を整えていかないと、このような取り組みを続けていくのはとても困難であると感じた。特にSULAとしての仕事をきちんとこなそうとするのであれば、「兼業」ではなく、「専業」にすべきであると思う。
- ・学修支援を実践している現場の方の具体的な話は大変参考になりました。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 【33名】 b. 千葉大学内の方 【15名】
- (2) a. 学生 【0名】 b. 教員 【10名】 c. 大学職員(図書館職員を除く) 【20名】
d. 図書館職員 【16名】 e. 出版関係 【0名】 f. その他 【0名】

6. シンポジウムを何で知りましたか？

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 【6名】 b. Web(図書館) 【5名】
c. Web(千葉大学) 【3名】 d. 図書館内電子掲示 【0名】 e. ポスター 【2名】
f. センターからのメール 【16名】 g. センターから郵送のご案内資料 【5名】

h. Facebook・Twitter 【 0名 】

i. その他【 11名 】(asagao メール、国公立大学図書館協会からのメール、学内者からの紹介)

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーやシンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

【 15名 が新規に希望 】

ご協力ありがとうございました。